

東奥日報

2023年(令和5年)3月8日(木曜日) (5)

脱炭素化の人材育成

八戸産学官連携へ協議会

温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」の達成を目指し、八戸工業大学とエネルギー関連会社や八戸地域の企業、関係団体、NPO法人など13社・団体が7日、「HITカーボンニュートラル人材育成協議会」(会

長・坂本禎智八工大学長)を設立した。産学官で連携し、カーボンニュートラル達成に役立つ人材の育成・確保に向けた事業を行う。八工大で開かれた第1回会合には、オプザバーの県や八戸市、むつ市、六ヶ所村などを含め計約20人が

出席。副会長に県工業会の東康夫会長を指名した。

協議会は、カーボンニュートラルに役立つ人材に必要な知識・能力を整理するほか、社会人が技能・知識を学び直す「リカレント教育」のプログラムについて協議する。研修・講演会を開いたり、中高向けのエネルギー環境教育、先進事業・先端技術の視察などを行う計画。

(岡田圭逸)

全学横断で新年度

脱炭素を学ぶ講義

八工大1、2年生対象

八戸工業大学は2023年度から1、2年生を対象に、カーボンニュートラルを学ぶ全学横断の講義を開

講する。炭素循環や水素化、電力システム、再生エネルギー導入制度などについて、基礎から応用的な内容まで扱う。

7日の「HITカーボンニュートラル人材育成協議会」第1回会合で示した。同大は27年度をめどに、カーボンニュートラル達成に貢献する人材を育成するための学科または教育プログラムを作る構想も説明した。産業界や関係機関の要望を反映させる。同大は、全国の大学などが21年7月に設立した「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション(連合)」に参加している。

(岡田圭逸)

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」